

「児童の主体性・自立性を育む生活科の時間の授業づくり」
～「つくろう あきのおくりもの」の学習を通して～

日立市立金沢小学校

1 はじめに

小学校学習指導要領解説生活科編の目標には、「具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う」と記されている。「具体的な活動や体験」とは、見る、聞く、触れる、作るなどの活動のことである。児童が身近な自然や人々、地域に働きかける中で、上記のような活動をしていくことで、新たな気付きや表現する喜びを感じ取り、自己の成長を実感できることが大切である。

2 実践事例

(1) 単元名 あきとなかよし

(2) 目標

- ① 身近な自然に目を向け、様子に変化したことに関心をもつことができる。また、自然と進んでかかわり楽しく遊ぶことができる。 (生活への関心・意欲・態度)
- ② 木の葉や木の実などの身近な自然物を利用して、絵や飾りに表したり遊びを考えたりすることができる。また、遊んだことや見つけたこと、楽しかったことなどを表現することができる。 (活動や体験についての思考や表現)
- ③ 身近な自然の様子が変化したことに気付くことができる。また、自分の活動に満足感を持ち自分のよさに気づき、一緒に活動した友達のよさに気付くことができる。 (身近な環境や自分についての気づき)

(3) 指導にあたって

本単元は、学習指導要領の内容(5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」(8)「生活や出来事の交流」を受けて設定したものである。本単元では、学校内や校区内で秋探しをし、秋の自然を体全体で感じながら繰り返し自然と触れ合う活動を行う。その中で自然を使った遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、安全に気を付けてみんなで遊びを楽しんだり、季節によって自分たちの遊びや生活の様子が変わることに気付いたりすることをねらいとしている。また、友達と一緒に遊ぶものを作ったり、「あきまつり」で友達や地域の幼稚園の園児と一緒に遊び合ったりする活動を通して、身近な人とかかわることの楽しさに気付くことができると思う。

児童は、生活科の活動を好み、意欲的に取り組んでいる。秋の素材で作ったおもちゃを用いて、祭りを開くことをとても楽しみにしている。また、その祭りにおいて、幼稚園生を招待することから、意欲も高まっている。

指導に当たっては、自分たちで祭りを作り上げる活動を通して、自分たちでおもちゃを作り、遊ぶ楽しさを感じ、幼稚園生を招待して共に遊べる楽しさや喜びを味

あわせていきたい。また、木の実や落ち葉などの自然物を使った工作をすることで、季節の変化と実生活への関連を実感できるよう指導していきたい。

(4) 指導計画(8時間扱い) ○は本時

第一次 いきものと なかよし

第二次 はなや やさいをそだてよう③

第三次 あきと ふれあおう

第四次 つくろう あきの おくりのもの

次	時	主な学習活動	評価の観点
4	1	どんな会にしたいか話し合う。	園児の立場になって考え、遊びの準備をしたり、プレゼントを作ったりしている。
	② 3 4	園児を招待するために、グループごとに必要な道具を作ったり、ルールを決めたりして、出店の準備をする。	園児に楽しんでもらうために友だちと協力して考え、準備をしている。
	5 6	園児を招待し、あき祭りを開く。	友だちと協力し、お店を開いている。
	7 8	頑張ったこと、工夫したことなどについて振り返る。	頑張ったこと、工夫したことを振り返ることができる。

(5) 本時の学習

① 目標

秋の自然物を使って、自分の作りたいものを工夫して作ることができる。

② 準備・資料

木の実(どんぐり、松ぼっくり)、小枝、接着剤、きり、はさみ、セロテープ、カラーペン、ワークシート(作品計画表、振り返りカード)

③ 展開

学習活動・内容	時間	指導の手立てと評価
1 本時の学習課題をつかむ。 あきのおくりものをつかって、くふうしてこうさくしよう。	5	・グループのメンバーで作る物の確認をする。 ・材料や道具の使い方の説明、確認をする。
2 グループの友達と一緒に、自分の作りたいものを協力して作る。 ・こま	25	・作業をしながら思いついたよいアイデアを試し、取り入れていけるよう支援する。

・ 楽器 ・ ケーキ ・ さかなつり ・ アクセサリー ・ まつぼっくりツリー 等 3 片付けをする。 4 本時のまとめをし、次時の活動を伝える。	105	☆作り方に困っている児童に対しては、計画書を見ることや、友達に聞いてみることを助言する。 ・ 作品を完成させた児童には、制作途中の児童にアドバイスするように伝える。 ・ 協力して片付けるよう伝える。 木の実などの秋の自然物を使って、自分の作りたいものを工夫して作ることができたか。（観察・作品）
---	------------	--

3 本時の学習の実際

自分たちで集めた秋の木の実や落ち葉を使い、あきまつりの準備を行ったことで、「いつもと違ったツリーになった」「初めてどんぐりごまを作った」など、季節の良さを感じられる発言が多く見られた。自分たちで集めた材料から、園児たちに送るプレゼント作りは子どもたちも意欲が高まり、積極的に活動することができたと感じる。



（児童の作品 まつぼっくりのツリー）



（児童の作品 ケーキ）

4 成果と課題

（1）成果

- ・ 秋の材料を使うことで、季節を味わい、材料の色や形を活用しておもちゃ作りに取り組むことができた。
- ・ 児童同士でアイデアを出し合いながら作業を進めることで、友だちの考えや良さに気づき、認め合うことができた。
- ・ 学年内だけでなく、幼稚園児を招待するお祭りであったため、準備をする段階から「喜んでほしい」「楽しんでほしい」と、児童自身も意欲的に活動に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・作りたいものが浮かばない、浮かんでも作るのが難しい児童が数名見られた。児童たちが充実感や達成感が味わえるような支援や助言を研究していきたい。
- ・秋の素材を大量に使うため、早い段階からの準備が必要であった。早めの呼びかけが課題となった。



(作品製作後の児童のワークシート)



(楽器屋)



(どんぐりごま屋)



(アクセサリ屋)



(ケーキ屋)